

どっておりますが、患者層である75歳以上の人口は2025年まで微増することが見込まれています。このため、不足している常勤医師の確保に努め、国保病院を基幹病院として町内の医院や函館市内の中核病院との連携を強化し、引き続き住民ニーズに対応した医療の提供に努めてまいります。

産業・観光

《農業》

国の農林水産業を産業として強くしていく「産業政策」と、国土保全といった多面的機能を発揮するための「地域政策」を両輪として取り組むとの方針の下、「農林水産業・地域の活力創造プラン」を策定し、平成30年には、農業の更なる成長産業化に向けて、スマート農業の取組や、農林水産物の輸出強化などを追加し改定しております。

《林業》

新たに創設される「森林環境税（仮称）」及び「森林環境譲与税（仮称）」の活用を見据え、新たな森林管理システムへの対応や、昨年度取得した森林認証制度の積極

的なPR、町独自の森林整備対策事業を進めてまいります。

《水産業》

アワビ人工種苗事業、ウニ人工種苗事業については、放流を行っていることで、一定程度の成果があり、水産資源の確保につながっていることから継続すると共に、人工魚礁の整備や藻場造成に関する要望を行い、資源管理型漁業の定着を進めてまいります。

《商業・工業》

中小企業・小規模企業支援のため、昨年策定した「木古内町中小企業・小規模企業振興基本計画」に基づき、設備投資や経営の維持などに対する補助金の交付や、商工会や金融機関と連携を図り、融資にかかる信用保証料や利子補給金の補助事業を継続してまいります。

《観光・広域観光》

新たな時代を見据え、観光を核とした地域づくりの実現に向けて策定した、木古内町観光振興計画を推進するため、「木古内町観光振興計画推進会議」を立ち上げ、事業を実施してまいります。新幹線のまちとしての優位性を

生かすと共に、今後予定される2020年度の函館新外環状道路「函館空港IC」開通及び、2021年度の高規格幹線道路函館・江差自動車道「木古内IC」開通、また、2030年の北海道新幹線札幌延伸により、当町における交通アクセスの利便性がより向上されることから、東北や首都圏、道内などでのプロモーションを通じて、当町をはじめとする道南西部エリアの魅力ある観光を広くPRしてまいります。

《雇用》

交通の利便性・優位性を広くPRすることで、企業誘致を積極的に推進するとともに、木古内町企業振興促進条例に基づき、町内における投資並びに常用雇用の雇用拡大や外国人技能実習生の受入れを行う企業に対する助成を行うてまいります。

生活環境・交通

《住環境》

交通の要衝という地理的利便性や生活環境等の情報について、知内町と連携して開催するセミナーやHP等で広く発信し、移住・定

住対策に取り組んでまいります。

《公共交通網》

道南いさりび鉄道は、通勤・通学・通院等の地域の公共交通機関としての役割を果たす一方で、津軽海峡沿いの海岸線や漁り火、函館山、津軽・下北半島を望むロケーションの素晴らしい観光列車としての利用客も見込まれ、「ながまれ海峡号ツアー」が大変好評を得ております。

沿線の観光スポットへの立ち寄りができるよう、駅舎内へのサインや貸し自転車などの整備を継続してまいります。

《道路》

高規格幹線道路「函館・江差自動車道」については、遺跡調査の影響により木古内ICの供用開始が2021年度となり2年先延ばしとなりましたが、引き続き早期完成を要望してまいります。

《上・下水道》

上水道事業については、今後も、人口減少等による水需要の減少により給水収益が減少し続けることが予想され、その一方で水道施設の老朽化も進み更新経費が増加することが見込まれております。